

宮農だより

金沢営農協議会
J A 金沢中央
石川県農業共済組合

6月のポイント ～高品質金沢産米づくり運動10の推進技術～

- 中干しは、田植え1か月後から実施 ○中干し期間は、コシヒカリで約1か月間
- 畦畔・農道等の除草は5～6月にかけて実施し、7月上旬までに追加除草
- 高温登熟に対応した施肥体系

今後の水管理

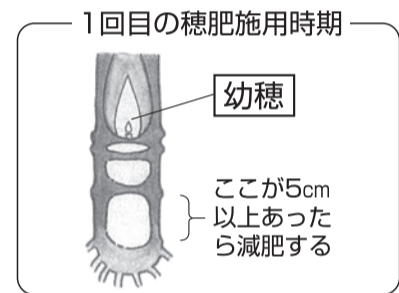
ゆめみづほ（早生品種）は、稲が最も水分を必要とする時期（幼穂形成期～出穂後3週間）になるので、常に土壌水分を保つように（飽水管理）、こまめに通水する。通水は可能な限り夜間に通水し、根の活力低下を防ぐことで乳白粒の発生軽減に努める。

コシヒカリ（中生品種）は、中干しを7月5日頃まで継続する。中干しを実施していない圃場は、早急に中干しを実施する。

ゆめみづほの穂肥施用

ポイント

- ① 1回目の穂肥は出穂23日前に適量施用する。
1回目の穂肥施用時期の確認 → 幼穂長：1～2ミリ 葉色：4.0～4.2（葉色板）
- ② 2回目の穂肥は遅くとも出穂の1週間前までに施用する。



平年出穂期 **ゆめみづほ・・・7月17日頃**

（地域や圃場、田植日によって出穂期は前後します。）

【穂肥施用時期の目安と施用量】（10a当たり）

品 種	区 分	肥 料 名	1 回 目		2 回 目	
			施肥時期	施肥量	施肥時期	施肥量
ゆめみづほ		BB有機入追肥 526号(15-2-6)	6月24日頃	20kg	7月7日頃	25kg

- ・市街地では上記の2～3日前を施用の目安にする。
 - ・乳白粒等の発生しやすい圃場で、生育が劣る場合には、2回目の穂肥施肥の際に5kg/10a程度増量する。
 - ・登熟期間の高温が予想される場合には、2回目の穂肥施肥の際に5kg/10a程度増量する。
- ※スリム早生一発くん使用のほ場で追加穂肥が必要な場合は、穂肥2回目（7月7日頃）の時期を目安に5kg～10kg/10aを追肥する。

◆ コシヒカリの穂肥施用時期は次回の宮農だより第5号でお知らせします。

中干し後は、止め水せずに、こまめに通水を！

J A 金沢中央のホームページでも宮農だよりを掲載しております。
「J A 金沢中央」で検索して下さい。

早生品種の病害虫防除

斑点米カメムシ類の発生が近年増加しており、「ゆめみづほ」は特に被害の大きい品種です。適期に防除を行ってください。

◆斑点米カメムシ類◆ ～農道や畦畔の除草は7月上旬までに実施しましょう～

- ・カメムシ類の発生が近年増加傾向にあります。暖冬の影響から、特に今年は大発生すると予想されています。
- ・カメムシの生息密度を下げるため、こまめに畦畔や雑種地の除草をしましょう。
- ・スタークル粒剤またはスタークル豆つぶは出穂後7日～10日に散布して下さい。
- ・斑点米防止には、地域での一斉防除（集落一斉防除など）が有効です。地域、集落ごとに協力して斑点米の発生を防ぎ、きれいな金沢産米をつくりましょう。

◆早生品種の基幹防除（出穂前）

〈粉剤体系〉

薬剤名	①ビームトレモンセレン粉剤DL
防除時期	7月9～13日頃 (出穂前7～3日、収穫21日前まで)
対象病害虫	いもち病・紋枯病・穂枯れ・カメムシ ウンカ・イネツトムシ・コブノメイガ ツマグロヨコバイ
散布量	4kg/10a



②ラブサイドスタークル粉剤DL ③スタークル粉剤DL

〈粒剤体系〉市街地または近隣に他作物があり
粉剤散布できない圃場

薬剤名	①イモチエーススタークル粒剤
防除時期	7月2～6日頃 (出穂前14～10日、収穫35日前まで) *使用回数は1回
対象病害虫	紋枯病・いもち病・穂枯れ・カメムシ ウンカ・墨黒穂病・変色米
散布量	3kg/10a



②スタークル粒剤またはスタークル豆つぶ

(2回目以降の防除については、次回の営農だより第5号に掲載します)

◆紋枯病常発田◆

紋枯病が毎年発生する圃場では、予防粒剤による防除が重要です。

薬剤名	防除時期	対象病害虫	散布量
リンバー粒剤	7月2～6日頃 (出穂前14～10日、収穫30日前まで)	紋枯病	3kg/10a

イモチエースクラブ粒剤を散布する圃場は、リンバー粒剤を散布する必要はありません。

◎金沢管内の生育調査結果（5月28日調査）

- ・草丈は、ゆめみづほ・コシヒカリで平年並み。
- ・莖数は、ゆめみづほが多く、コシヒカリで平年並み。
- ・生育は、ゆめみづほで平年より1日程度早く、コシヒカリで平年並み。

※農薬は、飛散防止に気を付けて散布しましょう。

栽培履歴を記帳しましょう！